「関西骨髄腫フォーラムのデータベースに登録された移植非適応かつ未治療の多発性骨髄腫患者の導入化学療法別治療成績の後方視的解析」のお知らせ

多発性骨髄腫は血液腫瘍の一つで、高齢化に伴い近年日本でも増加傾向にあります。様々な新規薬剤が開発され臨床で使用されており治療成績は向上しつつありますが、根治は困難であり、いずれ治療抵抗性となる難治性疾患です。複数の治療効果が期待できる薬剤が存在するため、病勢、合併症、社会的要因など様々な因子を考慮しつつ、初回治療、再発時治療はその都度最適と考えられる治療を選択する必要があります。しかしながら実際の診療において、決められた治療計画はなく、もともと高齢者に多い疾患であるため腎障害や骨関連事象の合併症も多く、治療中の減量や休止もしばしば認められます。そこで、関西における多発性骨髄腫の疫学・治療成績に関するデータベース（関西骨髄腫フォーラムのデータベース）を用いて治療内容や副作用などを後ろ向きに調査する研究が計画されました。

＜研究対象者＞
関西骨髄腫フォーラムデータベースに登録された、当院の移植非適応かつ未治療の多発性骨髄腫の患者さん

＜研究期間＞2024 年 9 月 30 日までを予定しています。

＜研究内容＞患者さんの背景、診断名、臨床所見、検査結果、治療内容、効果判定、副作用、転帰などの情報を診療録より収集します。

＜研究代表者＞京都府立医科大学　血液内科　志村　勇司

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は，研究代表者に情報を提供します。また、学会等で発表することがありますが、いかなる場合でも個人情報が漏れることはありません。プライバシーは守られます。
本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。また、この研究のデータを別の目的で二次利用する場合がありますが、その際には改めて倫理・臨床研究審査委員会の承認を得たうえでお知らせします。
本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もしそれを望まれない場合やご質問がある場合は担当医師にお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2023 年 4 月 1 日

血液内科　部長　菱澤　方勝